



仙果作

國貞画

七編上

外題曲五回

13
3746
7



門 13
號 3746



了み
をみ

七編上

中世蔵

仙果作
國貞画
喜鶴堂新刊

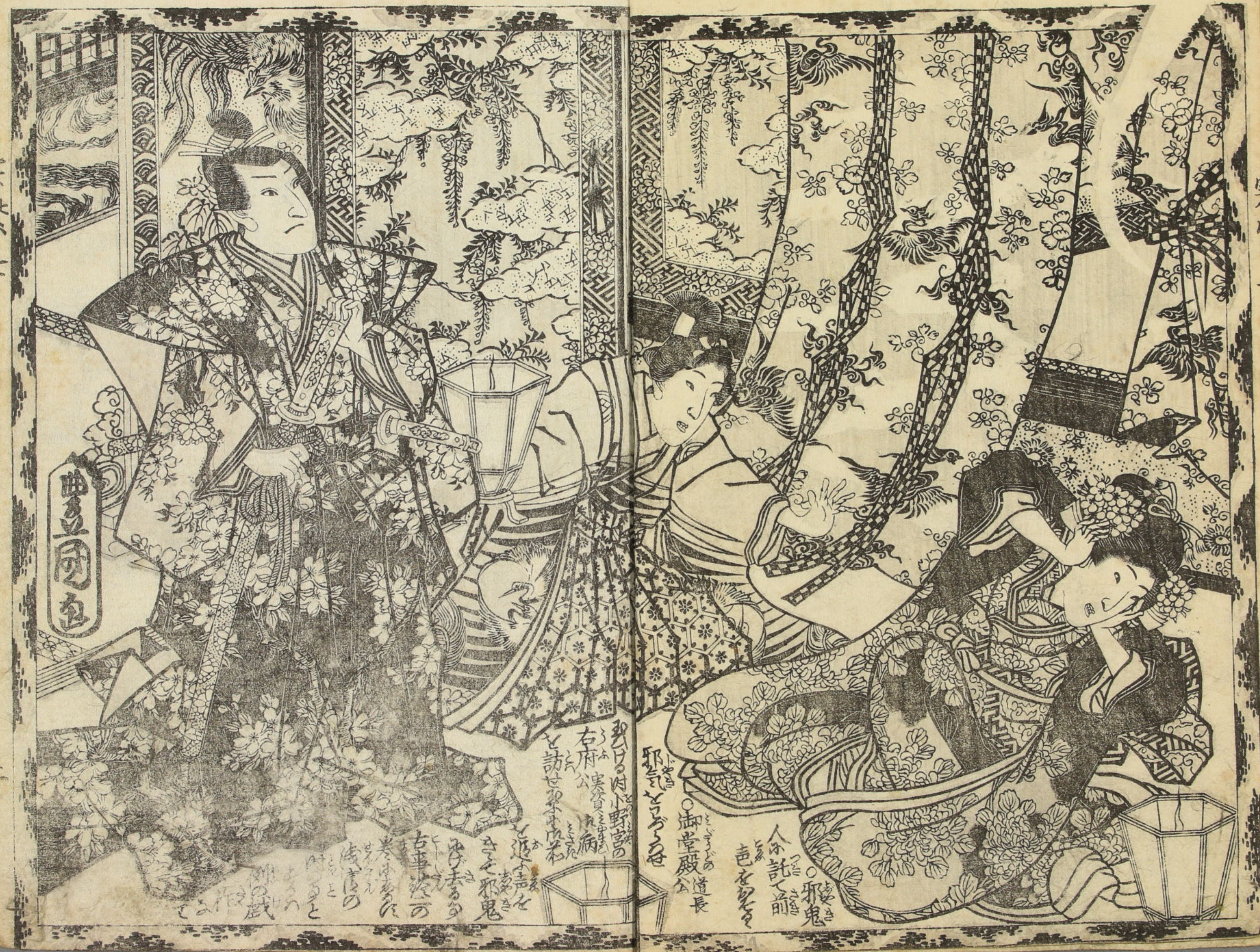
一

惟規が齋院の女房の許し通るの金葉集今昔物語十訓抄
等に見て木の丸殿の歌詠一話未だ出づる者さねど新設
ありては女房と少將の君とさる後拾遺集に惟規越後死
る期辞世の歌と齋院の少将が許すといふ詞書あり因
かむに之をあらぬ梁上君子と本編にも作る齋院記正暦三年十
二月五日盗齋院に入る是れ依て諸御彼の院に参りたまふとあり
後小惟規木の丸殿の歌よむ茶の伏笥と
ありては茶の物語詞花集の中これと年月の傳らぬか
ことおのれを貞仲の女と空設を初編をわし何故か定め
果つ上件の茶々ゆかろさるは記憶るなりとてと幼童
ら巻首ふまて七備忘と

乙卯春新刊

十 笠亭仙果

長世七



曲立同左

我々の内小野宮の
右府公 実資 病
と訪せられたる

邪気
とらるる

○御堂殿 道長

○邪鬼
人託し前
色を

近き吉を
きく邪鬼
古事記の
巻の末に
後述の
とらるる



田作茶
 十中按
 おかみ後拾
 又見徳あり
 少梅の君ま
 かしはとさ
 ねと

廿中
 なまふと
 田作茶
 十中按
 おかみ後拾
 又見徳あり
 少梅の君ま
 かしはとさ
 ねと

廿中
 なまふと
 田作茶
 十中按
 おかみ後拾
 又見徳あり
 少梅の君ま
 かしはとさ
 ねと



廿中
 なまふと
 田作茶
 十中按
 おかみ後拾
 又見徳あり
 少梅の君ま
 かしはとさ
 ねと

廿中
 なまふと
 田作茶
 十中按
 おかみ後拾
 又見徳あり
 少梅の君ま
 かしはとさ
 ねと

廿中
 なまふと
 田作茶
 十中按
 おかみ後拾
 又見徳あり
 少梅の君ま
 かしはとさ
 ねと

右京の... 宮内省... 右京の...
 養樂七...
 (The text continues with dense handwritten Japanese characters, including the character '松' visible in the illustration.)

(The text continues with dense handwritten Japanese characters, including the character '松' visible in the illustration.)



松

Handwritten text in the top left corner of the left page, written vertically in a cursive style.

Main body of handwritten text on the left page, continuing vertically down the page.

Handwritten text in the bottom left corner of the left page, including a small square symbol.

Handwritten text in the top right corner of the right page, written vertically.



Handwritten text in the bottom right corner of the right page, written vertically.



カウシヨウノサトノシロ

カウシヨウノサトノシロ
カウシヨウノサトノシロ
カウシヨウノサトノシロ

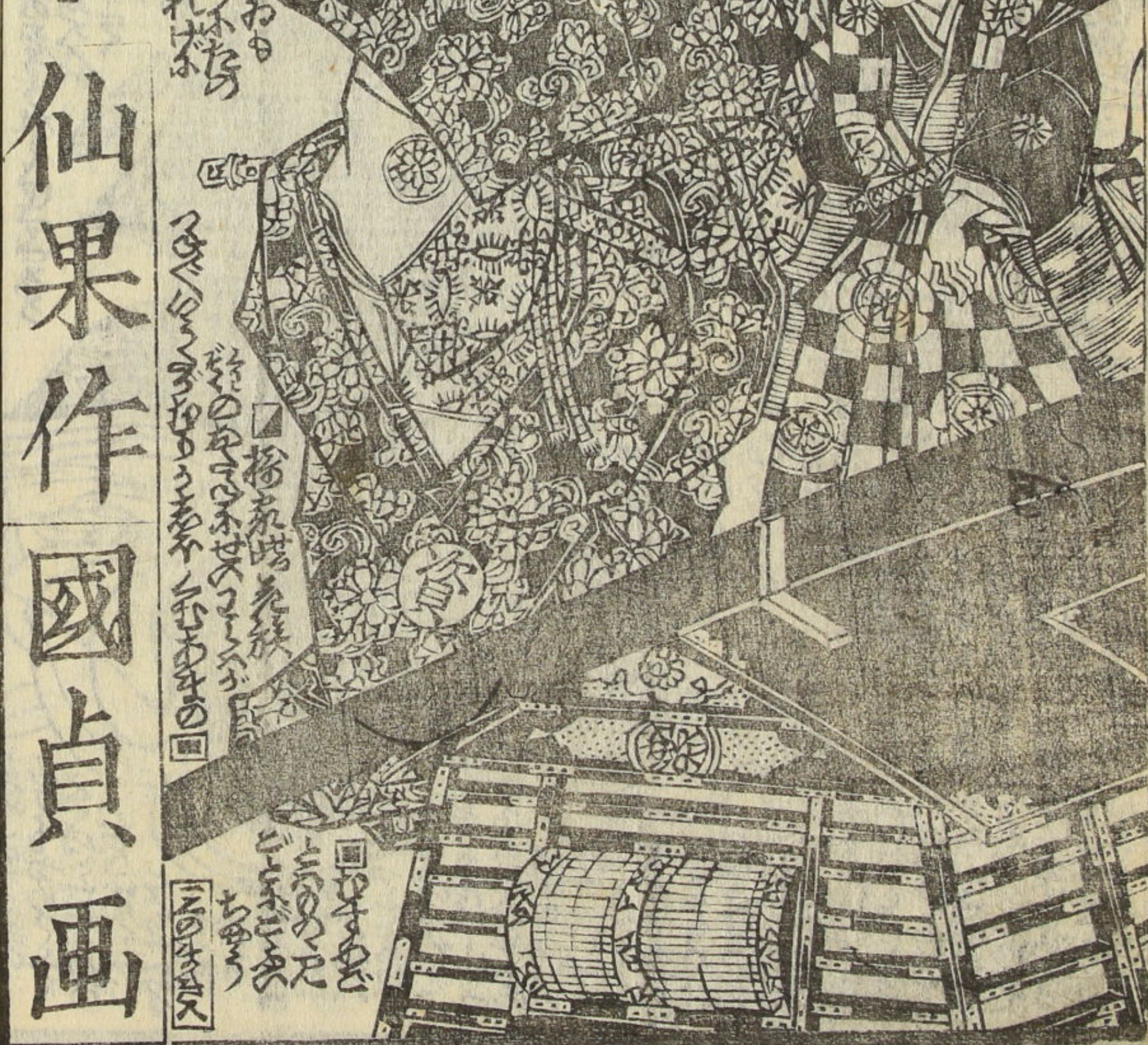
カウシヨウノサトノシロ
カウシヨウノサトノシロ
カウシヨウノサトノシロ

カウシヨウノサトノシロ
カウシヨウノサトノシロ
カウシヨウノサトノシロ

カウシヨウノサトノシロ
カウシヨウノサトノシロ
カウシヨウノサトノシロ

カウシヨウノサトノシロ
カウシヨウノサトノシロ
カウシヨウノサトノシロ

此の薬は... 諸合薬... 仙果作國貞画... 諸合薬の効用... 仙果作國貞画の由来...



諸合薬

江守之大通守田川町西側中程
紀伊國屋丸兵衛

御薬種丸散丹圓諸合薬精製吟味別而念入申候
其外奇薬最上極品貯且定價廉直也

家傳救命丸 大人小兒万病急症を救ふ至其薬也

痛梅 口中きつけとくけし三日あひ... 痛梅の効用... 痛梅の由来...

中暑和中飲霍乱暑あつて

加正散以粉菊四季の川風

清糸衣何は新之巻も去

一粒丸大人小児

御白体法入の掛香の草子入

即如一七切

御薰物不浄除

不浄除清居間

雷除神丹世神丹

神丹世神丹

旅行懐中浄用意未

意未貯薬

御香木古伽羅

御香木古伽羅

塗香右六国七種組合代金壹分

塗香右六国七種組合代金壹分

嘉永八年乙卯孟春新刊目録

根源實紫

自七編至十二編 笠亭仙果作 當卯正月發兌 梅蝶樓國貞画

七編 中將の君を罪におとす... 八編 花山法皇圓城寺... 九編 惟規越後... 十編 法皇中勅... 十一編 紫式部... 十二編 紫式部... 著述の系八十六七編

喜鶴堂主人敬白

根源

み

起

起

喜鶴堂板

七編下





東洋七

十一

仙果作

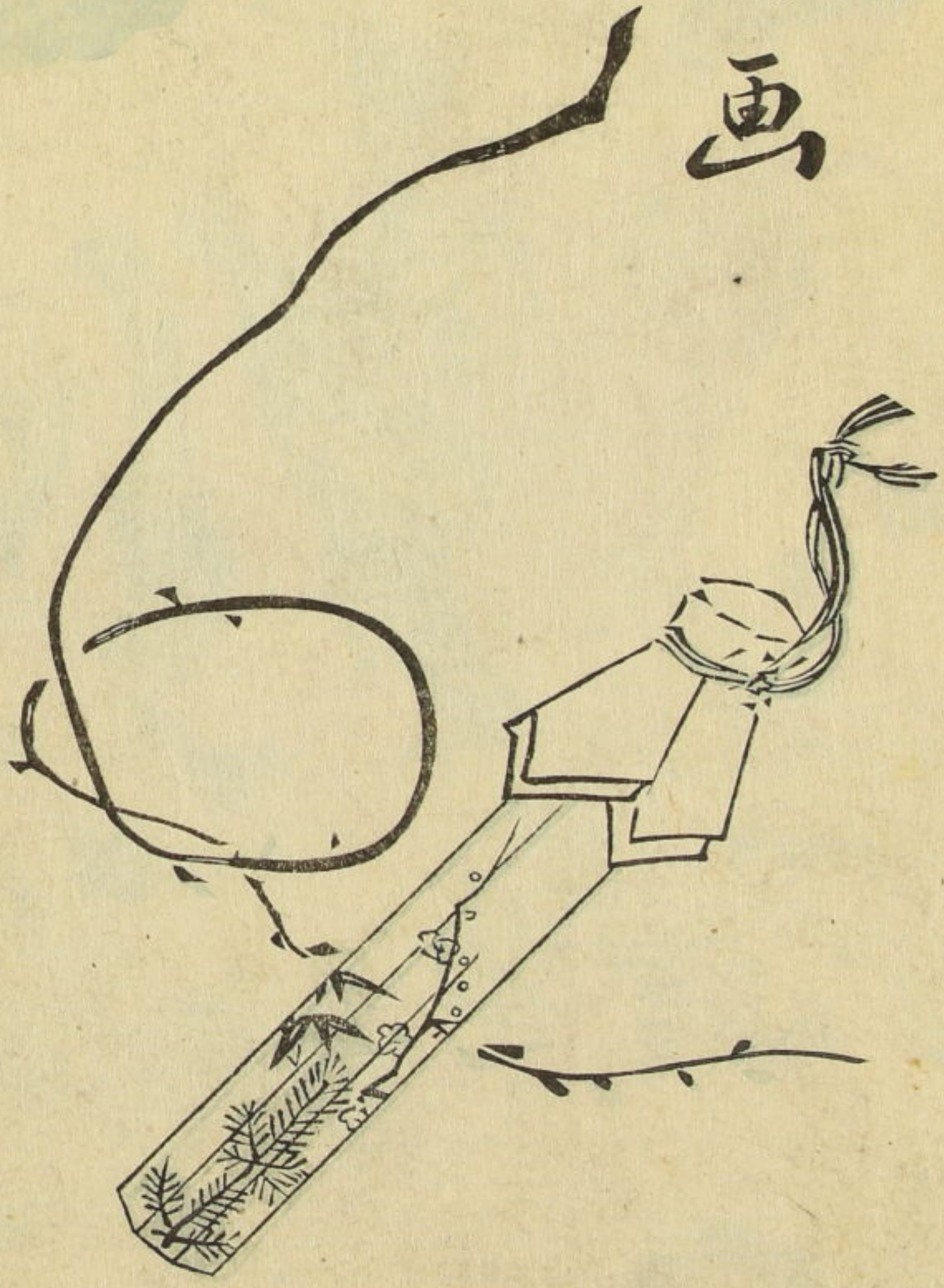
國貞画



愛

忌

七編下



卯亥

七巻板



此の如きもの
 江戸の町に
 多く見ゆ
 此の如きもの
 江戸の町に
 多く見ゆ
 此の如きもの
 江戸の町に
 多く見ゆ

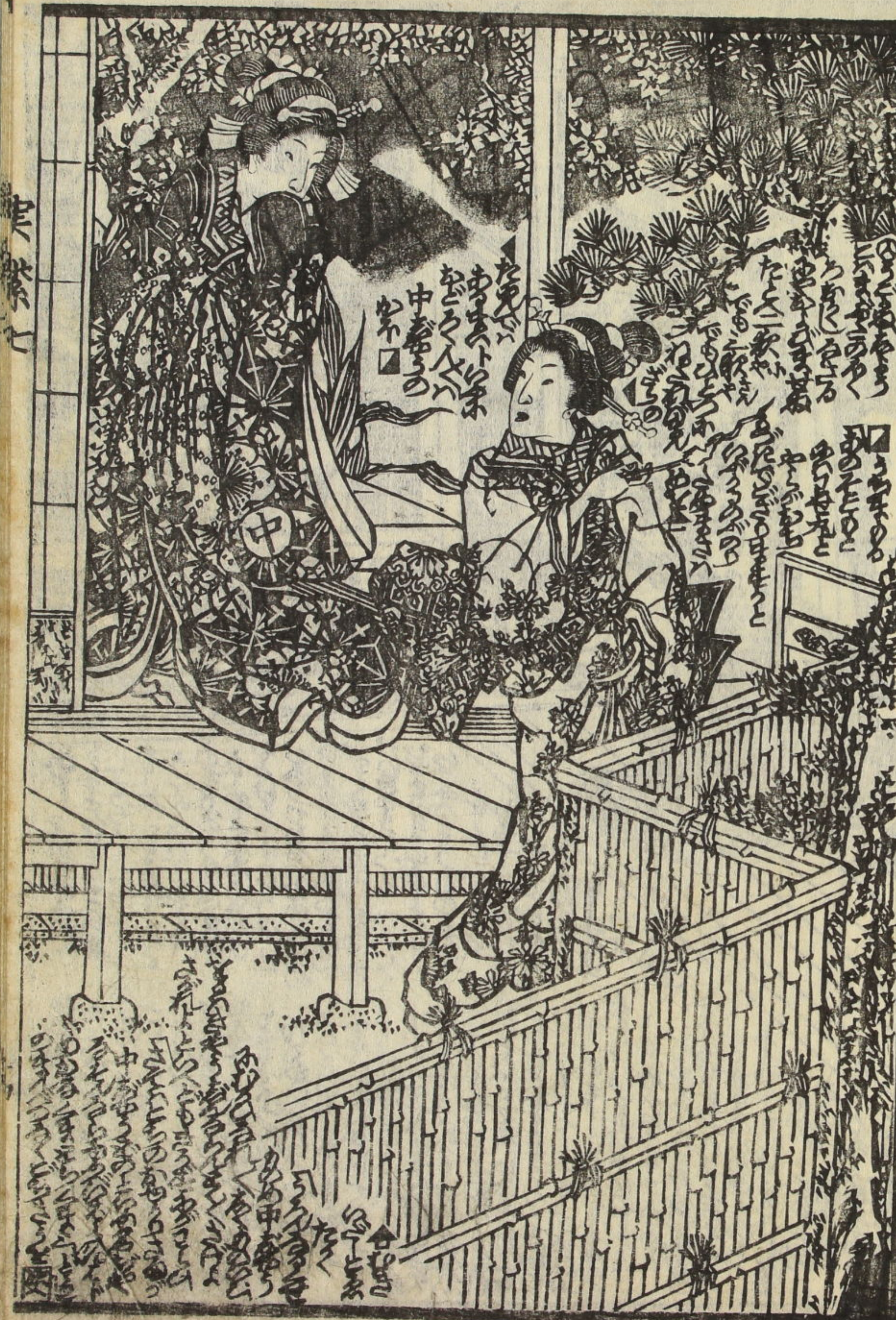


此の如きもの
 江戸の町に
 多く見ゆ
 此の如きもの
 江戸の町に
 多く見ゆ
 此の如きもの
 江戸の町に
 多く見ゆ



下巻 七

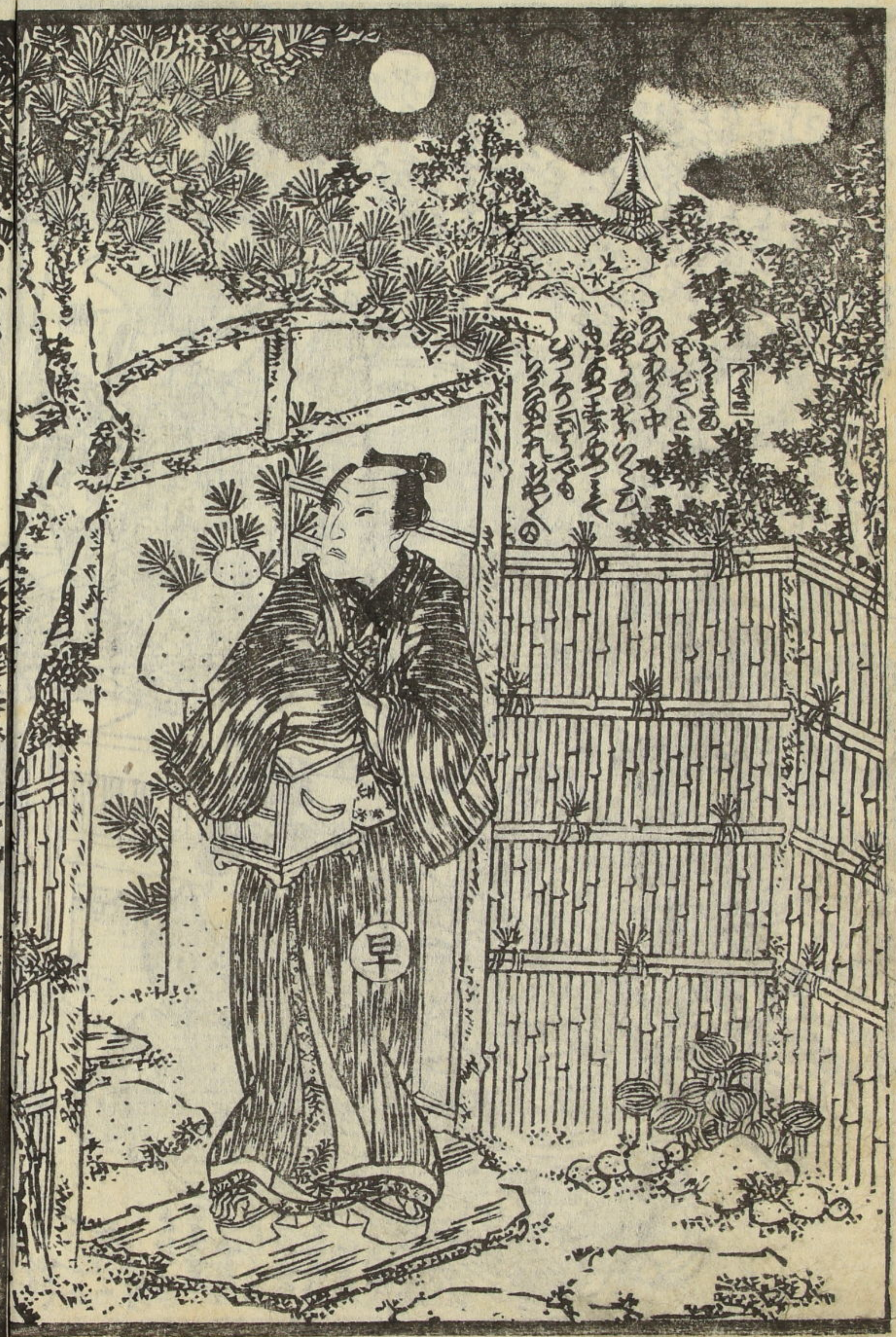
下巻 八



中

あまの
おとろく
中
わ

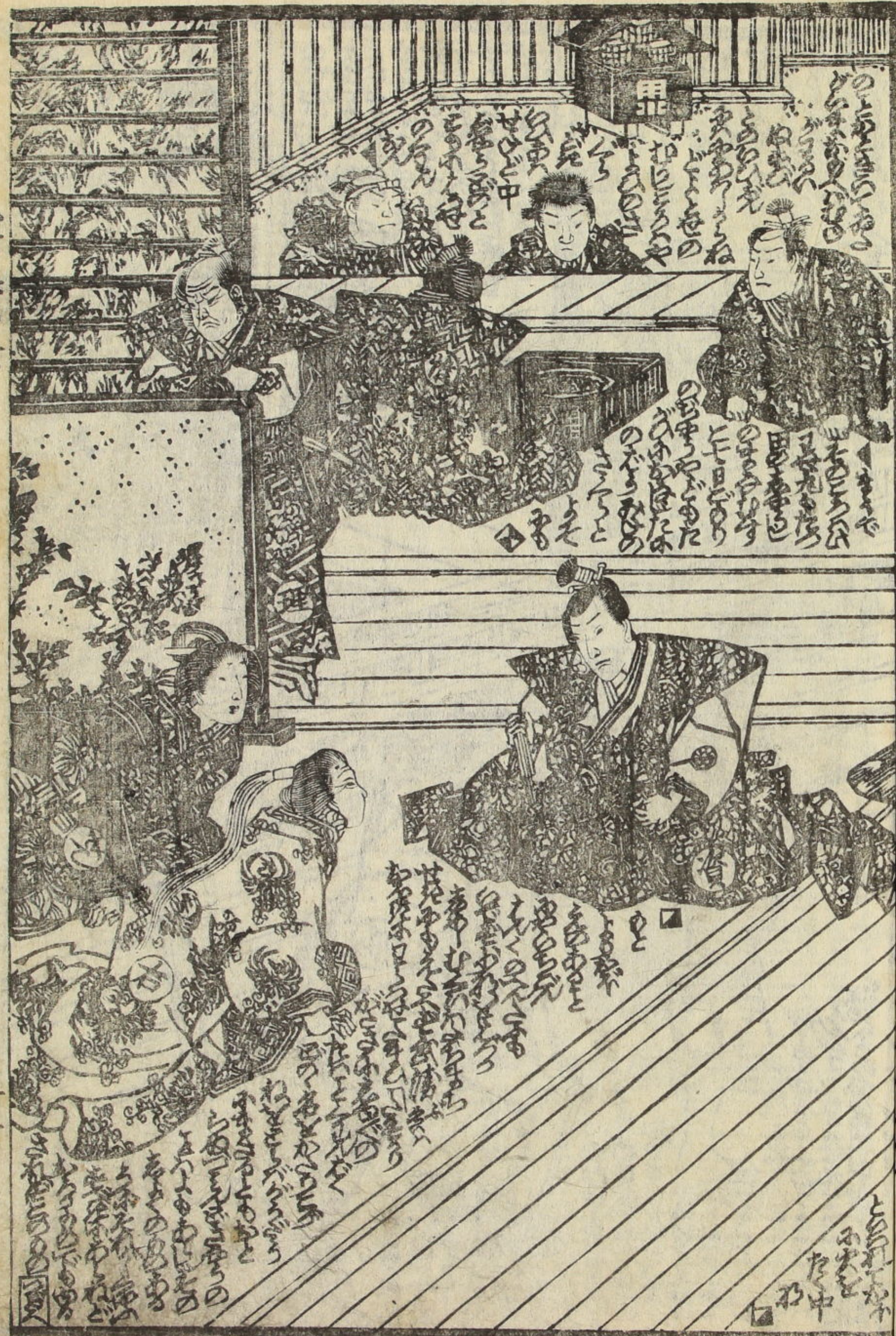
あまの
おとろく
中
わ



早

早

早

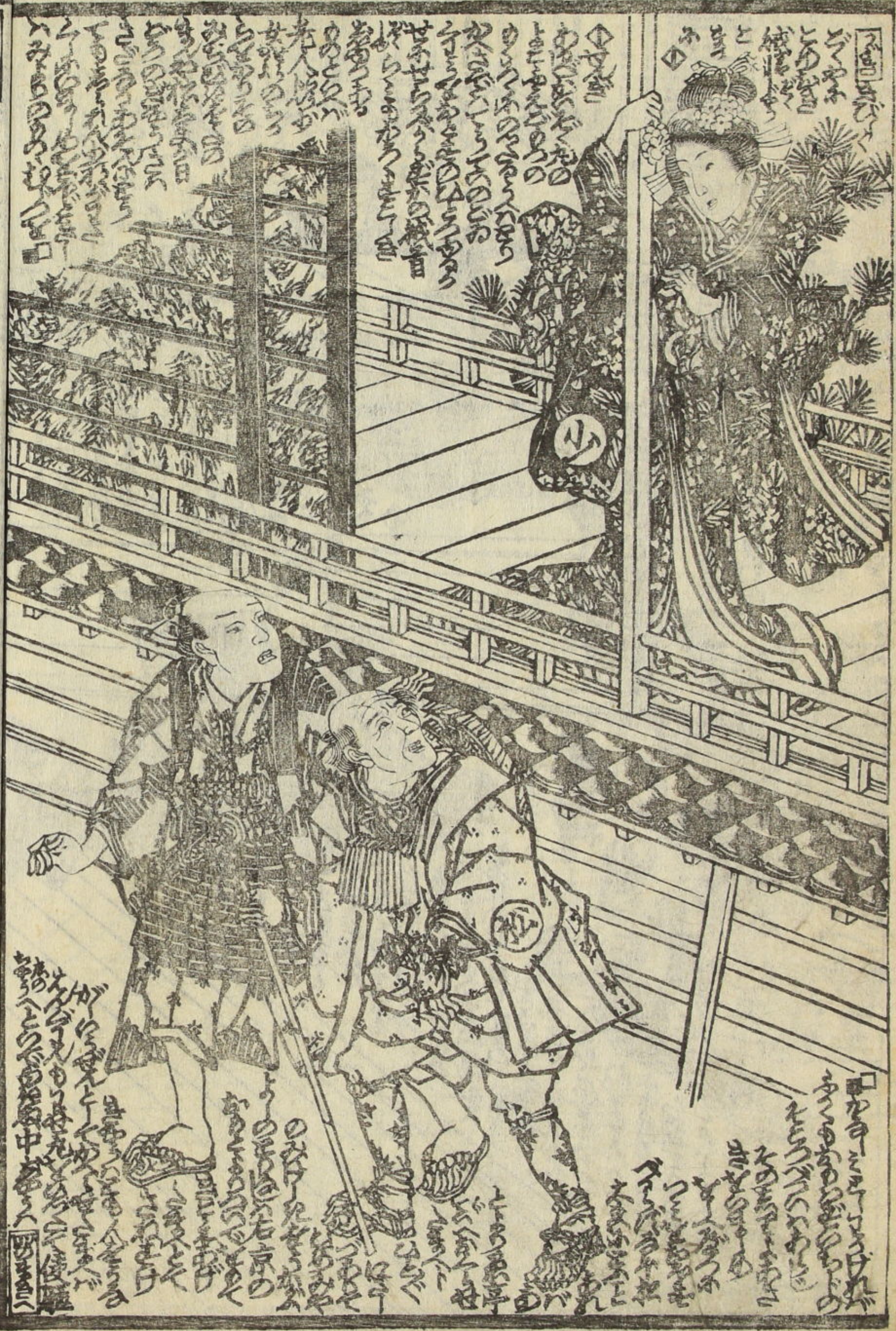


十一

十一

十一

十一



和歌集卷之七
上
三十一
三十二
三十三
三十四
三五
三六
三七
三八
三九
四〇
四一
四二
四三
四四
四五
四六
四七
四八
四九
五〇
五一
五二
五三
五四
五五
五六
五七
五八
五九
六〇
六一
六二
六三
六四
六五
六六
六七
六八
六九
七〇
七一
七二
七三
七四
七五
七六
七七
七八
七九
八〇
八一
八二
八三
八四
八五
八六
八七
八八
八九
九〇
九一
九二
九三
九四
九五
九六
九七
九八
九九
一〇〇

和歌集卷之七
下
一〇一
一〇二
一〇三
一〇四
一〇五
一〇六
一〇七
一〇八
一〇九
一一〇
一一一
一一二
一一三
一一四
一一五
一一六
一一七
一一八
一一九
一二〇
一二一
一二二
一二三
一二四
一二五
一二六
一二七
一二八
一二九
一三〇
一三一
一三二
一三三
一三四
一三五
一三六
一三七
一三八
一三九
一四〇
一四一
一四二
一四三
一四四
一四五
一四六
一四七
一四八
一四九
一五〇
一五一
一五二
一五三
一五四
一五五
一五六
一五七
一五八
一五九
一六〇
一六一
一六二
一六三
一六四
一六五
一六六
一六七
一六八
一六九
一七〇
一七一
一七二
一七三
一七四
一七五
一七六
一七七
一七八
一七九
一八〇
一八一
一八二
一八三
一八四
一八五
一八六
一八七
一八八
一八九
一九〇
一九一
一九二
一九三
一九四
一九五
一九六
一九七
一九八
一九九
二〇〇

和歌集卷之七
上
二〇一
二〇二
二〇三
二〇四
二〇五
二〇六
二〇七
二〇八
二〇九
二一〇
二一一
二一二
二一三
二一四
二一五
二一六
二一七
二一八
二一九
二二〇
二二一
二二二
二二三
二二四
二二五
二二六
二二七
二二八
二二九
二三〇
二三一
二三二
二三三
二三四
二三五
二三六
二三七
二三八
二三九
二四〇
二四一
二四二
二四三
二四四
二四五
二四六
二四七
二四八
二四九
二五〇
二五一
二五二
二五三
二五四
二五五
二五六
二五七
二五八
二五九
二六〇
二六一
二六二
二六三
二六四
二六五
二六六
二六七
二六八
二六九
二七〇
二七一
二七二
二七三
二七四
二七五
二七六
二七七
二七八
二七九
二八〇
二八一
二八二
二八三
二八四
二八五
二八六
二八七
二八八
二八九
二九〇
二九一
二九二
二九三
二九四
二九五
二九六
二九七
二九八
二九九
三〇〇



此の世に於ては人の心は
 常にうつろひて居るなり
 故に其の心を定むるは
 最も難しき事なり
 然るに人の心は
 常にうつろひて居るなり
 故に其の心を定むるは
 最も難しき事なり
 然るに人の心は
 常にうつろひて居るなり
 故に其の心を定むるは
 最も難しき事なり

夫れは人の心は常にうつろひて居るなり
 故に其の心を定むるは最も難しき事なり
 然るに人の心は常にうつろひて居るなり
 故に其の心を定むるは最も難しき事なり
 然るに人の心は常にうつろひて居るなり
 故に其の心を定むるは最も難しき事なり

夫れは人の心は常にうつろひて居るなり
 故に其の心を定むるは最も難しき事なり
 然るに人の心は常にうつろひて居るなり
 故に其の心を定むるは最も難しき事なり



疾の病に罹りては
 人の心は常にうつろひて居るなり
 故に其の心を定むるは最も難しき事なり



ここのち
 まいてかゝるふたふた
 つれあはれあはれのうらみ
 かゝるやうなふたふた
 ありてはさうさうと
 さるさるさうさうと
 かしらもさうさうと
 ひらひらさうさうと
 ひらひらさうさうと
 ひらひらさうさうと
 ひらひらさうさうと
 ひらひらさうさうと

ここのち
 まいてかゝるふたふた
 つれあはれあはれのうらみ
 かゝるやうなふたふた
 ありてはさうさうと
 さるさるさうさうと
 かしらもさうさうと
 ひらひらさうさうと
 ひらひらさうさうと
 ひらひらさうさうと
 ひらひらさうさうと
 ひらひらさうさうと

ここのち
 まいてかゝるふたふた
 つれあはれあはれのうらみ
 かゝるやうなふたふた
 ありてはさうさうと
 さるさるさうさうと
 かしらもさうさうと
 ひらひらさうさうと
 ひらひらさうさうと
 ひらひらさうさうと
 ひらひらさうさうと
 ひらひらさうさうと

ここのち
 まいてかゝるふたふた
 つれあはれあはれのうらみ
 かゝるやうなふたふた
 ありてはさうさうと
 さるさるさうさうと
 かしらもさうさうと
 ひらひらさうさうと
 ひらひらさうさうと
 ひらひらさうさうと
 ひらひらさうさうと
 ひらひらさうさうと

ここのち
 まいてかゝるふたふた
 つれあはれあはれのうらみ
 かゝるやうなふたふた
 ありてはさうさうと
 さるさるさうさうと
 かしらもさうさうと
 ひらひらさうさうと
 ひらひらさうさうと
 ひらひらさうさうと
 ひらひらさうさうと
 ひらひらさうさうと

